【中央アジアのエネルギー】

トルクメニスタン Osman-南 Yoloton 地域で 3 兆 m^3 のガス埋蔵を発見[1]

nCa (News Central Asia)ニュースと論評

Ashgabat, 6 March 2008 ---トルクメニスタンは、Mary 州の Osman-南 Yoloton 地域で３兆 m^3 のガス埋蔵を新たに発見したと発表した。

トルクメニスタン政府は火曜日、ベルドムハメドフ大統領がいくつかの新ガス・油井の稼動を開始するセレモニーのために南 Yoloton を訪問した際に、新発見についての暫定的な見積りを公表した。

正確な埋蔵量は、トルクメニスタンがまもなく実施しようと計画しているいくつかの国際的な会社による評価を経ないと明らかにはならないが、これまでの実績からは埋蔵量はトルクメンの専門家の推定を十分上回る可能性もあることをほのめかしている。
たとえば、トルクメニスタンは Daulatabat のガス田群が 1.7 兆 m^3 の埋蔵を有すると長年にわたって主張してきた。しかし、国際的に名の通った会社の行った評価を見てきたある人が確認（原文は cretified－pvoved ではない？）埋蔵量は 2.4 兆 m^3 であると nCa に語った。

同様に、中国の専門家によれば、トルクメニスタンー中国のパイプラインのために CNPC に割り当てられたアムダリア川右岸の Bagtiyarlyk ガス田群は、トルクメニスタンの専門家の初期の推定よりかなり多い 1.6 兆 m^3 を埋蔵している。

Osman-南 Yoloton は Mary 州において隣接した地域であり、およそ 1,800km^2 に及ぶ。ガス埋蔵層の厚さは 600m 以上あると想定されている。この地域は北は Minara、南は Osman、西は Gazanly、東は Yashlar に境界を接している。

大統領は訪問中にガス田 No.17、102 および 103 を稼動させた。これらのガス田の合計生産量は 900 万 m^3/d である。

大統領はまた主にスイート原油を産出する No. 6 油田も稼動させた。原油はウズベク国境に近い Lebap 州にある Seyidi 製油所に輸送される。

---

[1] 出所：”Three Trillion Cubic Meters New Gas Reserve in Osman-South Yoloton Area of Turkmenistan”, NewsCentralAsia(nCa), 06 March 2008

トルクメニスタンのすべての新しい井戸は傾斜掘り技術を使用して、多層探鉱を念頭において掘削されている。

新しい井戸の深さは 3,500 から 4,500m である。

2006 年の後半に発見された Osman-南 Yoloton 地域のいくつかの油田およびガス田では既に生産力を有している。

Osman において昨年、ある探鉱井で 500 万 m^3/d の産出があった。

陸海の探鉱において、これまで 150 の石油、ガス、石油－ガス－コンデンセート鉱床が発見された。これらのうち 50 箇所で活発な開発が行われている。

nCa の論評

トルクメニスタンと実りあるかかわりを欲するのであればタイミングを正しく解釈するが絶対的に重要である。

Osman-南 Yoloton 地域がおよそ３兆 m^3 のガスを埋蔵しているとの声明は以下のような 7 つの新たな事実と併せて考えなければならない。

１． ガスビジネスに豊富な経験を有する人物である Medvedov が選挙でプーチンと交代した。ただし、適切な言葉の意味において実際に起こったことは交代とは似つかぬものかもしれない。

２． ウクライナの Gazprom への支払いが滞ってきたことがヨーロッパの生身の神経を針で刺す結果となっている。

３． ヨーロッパは、ぼんやりした目的と表現するのが最もふさわしいかも知れない意図をもって、個別にあるいは集団でトルクメニスタンの機嫌をとってきた。

４． イランを非難して新しい制裁が行われてきたが、これはヨーロッパが中央アジアのガスをヨーロッパのマーケットへ輸送するのにイランの領土を利用することをさらに難しくする以外確たる効果をもたらしていない。

５．　トルクメニスタンとアゼルバイジャンはお互いの紛争を秩序だって解決しつつある。

６．　アゼルバイジャンは 10 年前後以内に石油が枯渇するであろうから、他の誰よりもカスピ海パイプラインを必要としている。

７．　ロシアは、しばらくの間信じられないことではあったが 2008 年 1 月に自国のガスによってウクライナの需要を満たしたとほのめかしてきた。これはトルクメニスタンが今冬の最も寒い月に契約の全量は供給しなかったあるいはできなかったことを意味する。

もしトルクメニスタンがこの段階で世界に向かって、国際的な評価者を招くことを吹聴ししながら、３兆 m^3 の新しい埋蔵を発見した**と語れば**、この単一のニュースだけで以下のようないろいろな方面にいくつものメッセージを送ることになる。

a.　**中国**はトルクメニスタンー中国パイプラインでコミットしたガス田からのガスをロシアからの輸出要求を満たすために振り向けなくてもよいことに安心するだろう。これはアムダリア川を横切る Malay-Bagtiyarlyk パイプラインの建設に関するロシアの会社との契約に直ちに続く、中国にとって２番目の安心である。このパイプラインは、もし Bagtiyarlyk ガス田が 2009 年 1 月のトルクメニスタンー中国パイプラインの稼動に間に合うように開発できなかったとしても、代替のガスを常時アムダリア川の対岸から入手してパイプラインに詰め込むことができることを意味する。さらに、5 億ドルの契約を政治的に影響力の強いロシアの会社に与えることは、ロシアにとって中国のパイプラインが居心地の良いものであることを示している。

b.　**ロシア**は Medvedov のもとで、中央アジアのガスをヨーロッパに輸送するどのような案のカスピ海横断パイプランの実現可能性にも一喜一憂する理由がなくなることになる。結局、これはプーチンのロシアの継続である；すなわち、誇張のための誇張、現実主義の跡をたどること。適切なインセンティブのもとではロシアはカスピ海横断プロジェクトへの参画を了解することさえもあり得る。このことはまた、トルクメニスタンと仲間になる唯一の方法は対等性と相互尊重によるものであることをロシアに注意喚起することになる。さらに、ウクライナの最近の態度からすると、トルクメニスタンを含む誰もが認めるように、ロシアは、**天然ガスの買手や売り手と新たな約束を行う前に**、ウクライナをバイパスする確固たるオプションを確立すべきである。

c. カスピ海横断パイプラインプロジェクトの**実現可能性**はベルドムハメドフ大統領のトルコ訪問によりにわかに光がさしてきた。このことはトルクメニスタンがカスピ海底にパイプラインを敷設するために精力をそそぐであろうことを意味するのではない；せいぜい、トルクメニスタンが自身の国益を損なうことのないアイディアを非常に真剣に考慮していることを意味する程度である。

d. カスピ海横断の**推進者**と切望者は、意味ある対話のためにはトルクメニスタンと妥協を図らなければならないことを理解する必要があるだろう。カスピ海横断の対話の実質的なラウンドの開始の直前に大きな発見があったとの声明はトルクメニスタンのカスピ海産ガスのすべてがこのプロジェクトに振り向けられる可能性のあることを意味する。他方ではカスピ海で係争中のガス田の少なくとも3分の２はトルクメニスタンが保有することでアゼルバイジャンを説得する努力によって新提案を調和の取れたものとする必要があろう。

e. 声明を発出するときは言葉の選択にも**注意を払わなければ**ならない。ユーラシアのエネルギー外交のキーパーソンである Steven Mann 大使は、ベルドムハメドフ大統領との最近の会談の後で、Nabucoo を実現可能な代替案として提案して、トルクメニスタンはそのエネルギー輸出オプションを多様化すべきであると語った。トルクメン政府の反応を推測することは難しいが、トルクメニスタンに関する限り多様化はトルクメニスタンー中国パイプラインの建設を開始することで既に実現している。Mann 氏は単なる「多様化」のかわりに「更なる多様化」と言うことによって少なくともトルクメニスタンー中国パイプラインを一時的に認めたのだろう。

（エイジアム研究所 研究主幹 酒井（さかい） 善正（よしただ））

Asiam Research Institute http://www.asiam.co.jp/